

市民と野党の共同の力で梅谷初当選

北陸信越比例、藤野保史候補、いま一步で届かず

今度の総選挙は自公政治の継続か野党共闘による政権交代かが問われる歴史的なたたかいとなりました。残念ながら、自民・公明政権の継続を許しましたが、このたたかいは、最初のチャレンジとして大きな歴史的意義があったと思っています。

一部マスコミでは、「野党共闘は不発に終わった。見直すべきだ」と言っていますが、現在の小選挙区制度の下で野党がバラバラにたたかったならば、自公勢力の思うつぼです。自公勢力がいまよりもさらに多数の議席を獲得し、金権、腐敗、国民生活無視の悪政がずっと続くことになるでしょう。

今回の総選挙で、野党共闘は一定の成果を上げました。そのことは新潟6区を含む全国62の選挙区で、野党で一本化をはかった候補が激戦に競り勝ち、何人も自民党の重鎮、有力候補を落選させたことにも示されています。ただ、今回の野党共闘では、野党が力をあわせて、共通政策、政権協力の合意という共闘の大義、共闘によって生まれうる新しい政治の魅力を、さまざまな攻撃を打ち破って広い国民に伝えきる点で、十分ではありませんでした。この点は今後の課題として修正していく必要があります。

さて新潟6区です。2015年の参院選

以来の市民と野党の共闘が、衆院新潟6区でも花開きました。厳しいたたかいはありましたが、安倍元総理などの応援を受けた相手候補に競り勝ちました。

当選後の選挙事務所でマイクを持った梅谷守さんは、「3度目の正直、みなさんと勝ち取った勝利だ。新潟6区の議席を奪還し、重い責任を痛感している。公約実現に向けてとことん汗をかいていく。ゆがんだ政治を立て直して、まっすぐにするために頑張る。何よりも新潟6区、この地元のために精一杯頑張っていく」とのべました。

一方、比例区ですが、北陸信越ブロックにおいて、日本共産党は225,551票(得票率6.4%)にとどまり、議席に届きませんでした。比例の藤野保史候補の議席は原発問題のエキスパートであり、災害対策などの論客として活躍してきた「宝の議席」だっただけに残念でなりません。次の機会です必ず捲土重来を期したいと思えます。ご



新潟県第6区各候補の得票

市区町村	梅谷守	高鳥修一	神鳥古賛
十日町市	13,877	15,954	247
糸魚川市	9,927	15,051	193
妙高市	9,198	8,541	168
上越市	55,134	47,895	1,065
津南町	2,543	3,108	38
第6区計	90,679	90,549	1,711

協力よろしくお願ひします。



【リンドウ】(再掲) リンドウ科の多年草。漢字で「竜胆」と書きます。葉も根も苦く、薬草になります。花期は9月～11月。青紫色のきれいな花を咲かせます。花は晴れている時だけ開きます。あとはしっかり閉じてしまいます。花言葉は「悲しんでいるあなたを愛する」「誠実な人柄」。写真は10月31日、吉川区代石にて撮影しました。

いわさわ健候補、16,184票を獲得し健闘

31日は上越市議補選も結果が出ました。いわさわ健候補は、日本共産党公認候補としては、これまでで最高の16,184票を獲得し健闘しましたが、議席には届きませんでした。当選は木南和也氏でした。

いわさわ候補は、選挙戦の中で、「コロナからのちと暮らしを守ります」「国や県の医療再編の攻撃から地域の病院と医療を守ります」と訴え、多くの市民のみなさんの支持と共感を呼びました。今後は公約実現のために頑張ります。

写真は10月28日、直江津の三八市で宣伝するいわさわ候補です。



No.2035 2021.11.7
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

QRコード
 ブログ「ホーセの見たある記」はこちら
 橋爪法一 検索

春よ来い 第六八二回 赤とんぼ

もう少して日が落ちる日曜日の夕方でした。事務所の建物の西側に集まった赤とんぼの様子を見ていたら、Aさんが軽トラツクを止め、私のそばにやってきました。

Aさんは、畑仕事を終えて家に帰ろうとしていたのですが、私の様子が気になったようです。Aさんが私のところに来て何を言いたいかは顔に書いてありました。質問される前に私の方から言いました。

「いま、赤とんぼ、いっぺいるすけ、見てるが……」

「そう言えば、今年は赤とんぼの数、多いよね」

「そうかもね。でも、この時期になると、毎年、けつじつ(ケツジツ)」

「そうなんだ」

少し言葉を交わしてから、今度は、二人で赤とんぼたちの様子を見つめました。事務所の西側の壁にとまっている赤とんぼは少なくとも二〇〇匹はいました。そこへススキなどが生えた近くの原野から湧き出るように次々と赤とんぼがやってきます。壁と手前の空間はまさに赤とんぼのタマリ場となっていました。

壁は下から六〇センチほどの高さまでがコンクリートの土台となっていて、その上は茶色の下見板です。夕日はコンクリートにも下見板にも当たっていました。誰が見てもそこは温かそうな場所になっていました。

飛んできた赤とんぼは何度かホバリングをし、それから壁にとまります。なかには他の赤とんぼの体に触れてしまい、慌てて離れ、再びホバリングする赤とんぼもいました。でも、最後は自分がとまることのできるスペースを見つけて垂直な壁にぴたりと張り付きます。

赤とんぼが壁にとまる時には、長い毛がついた三対六本の足で壁をつかみ、四枚の翅(はね)を内側に折り、壁を押さえるようにしています。そして細長い腹の一番

下のところも壁にくっつけています。足と翅と腹を使って壁から落ちないようにしているのです。

二人で赤とんぼを見ながら話をしたのはほんの数分です。年齢的には六〇代後半と七〇代前半でありながら、二人は、いつの間にか子どものような気持ちになっていくのを感じました。

かつては牧草地だったものの、いまはススキやセイダカアワダチソウが支配した原野から飛んでくる赤とんぼの姿を見ていて、二人とも同じことを考えていました。どちらかが素朴な疑問を口にしました。

「いったい、赤とんぼはどこからやってきたんかいね」

答えが出ないうちに次々と別の疑問も浮かんできました。晴れている日だけではなく、雨の日だってあるのに、そういうときは木の下にいるのか、草に隠れているのだろうか。セミは羽化してから一週間ほどの命だけど、赤とんぼはどれくらい生きるのだろうかなどといった具合です。

Aさんと話をしている途中で日はかげりました。その瞬間は見えていないのですが、日が当たらなくなったら、壁の赤とんぼはほとんどいなくなると、残ったのはほんの数匹になりました。そして、また、二人のどちらかが言いました。

「赤とんぼは、いったいどこに行ったんだろうね」

ここ数年、私はまったく同じ場所で赤とんぼの群れの写真を撮り続けてきました。とにかく懐かしい。赤とんぼが次々と壁にとまる様子を見てみると、なぜか子どもの頃の世界にさかのぼります。

この季節の夕方、私はエコちゃやヒトシちゃんなどと思いつき遊んでいました。そこには赤とんぼもいました。そして暗くなると、腹が減って、母が田んぼから早く帰ってこないかと待ち続けたものです。

新そばの季節、各地でにぎわう



新そばシーズンです。市内各地で新そば祭りが行われています。写真は、大島区菅蒲の飯田邸で行われた新そば祭りで食べた天そばです。美味でした。会場では団体幹部のMさん夫婦にお会いしました。私の「春よ来い」を楽しみにしてくださるとか。有り難いことです。31日撮影。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月26日(火)	11月3日(水)
上越南消防署	0.053	0.047
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.053
頸北消防署	0.057	0.047
頸南消防署	0.057	0.060
東頸消防署	0.053	0.047
名立分遣所	0.053	0.053
高士分遣所	0.057	0.053

虫川大杉駅前で2年ぶりに大浦安げんき市

大島区、浦川原区、安塚区が連携して地域を盛り上げようと物産販売などを行っている大浦安げんき市が3日、ほくほく線虫川大杉駅前広場で2年ぶりに行われました。やはり、こういうイベントがあるとないで元気度は全然違いますね。イラストは大島区旭地区の人たちのお店です。皆さん、元気いいですね。

